

学生が地域との連携を目指す町家プロジェクト



松島 三兒

まつしま・さんじ 長浜バイオ大学学生教育推進副機構長(就職キャリア担当、兼就業力担当)／長浜バイオ大学教授／修士(経済学)(埼玉大学)
▶ 東京大学農学部農芸化学科卒、埼玉大学大学院経済科学研究科博士前期課程修了、日本専売公社中央研究所研究技術員、JT biotech USA, Inc 副社長、日本たばこ産業(株)アグリ事業部部長、経営戦略部部長を歴任
【専門分野】技術経営

本学では平成22年度より、長浜商工会議所を中心とする地元経済界との連携のもと、学生の社会人基礎力育成を目指すキャリア教育プログラムの開発に取り組んできました。地元経済界との面での連携が評価され、本学の取組は文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」及び平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択されています。

プログラム開発において特に考慮したのは、長浜の名を冠した大学として市民の方々と学生との関わりをいかに生み出していくかということでした。その一つ目の答えが、2年次向けの「長浜まちづくり魅力発見発信プロジェクト(現『長浜魅力づくりプロジェクト』)」です。この授業は、市民の方々に街なかに足を運んでいただける催しを、学生が商店街の協力を得て企画し開催するものです。一昨年は、東北復興支援の催しの中で、学生が小学生に東北の果物を思わせる香りをつけた石けんの作り方を教えました。昨年は、学生たちが自らの感性で湖北の食材を生かしたランチメニューを開発し、中心市街地にあるレストランで実際に提供していただきました。これらの活動を通して感じられたのは、本学学生が街なかで活動することに対する市民の方々の期待の大きさです。

しかし、この授業は後期のみであり、授業が終わればまた、学生の足は街なかから遠のいてしまいます。授業がない期間でも学生たちが恒常的に街なかに出かけていくためにはどうしたらよいか。市民の方々と関わりを生み出していくための二つ目の答えが、学生たちが年間を通じて利用できる活動拠点を街なかに作ることでした。

本学では、平成24年4月に街なかに町家(古民家)を借りて、学生たちが自由に利用できるようにしています。平成24年度には、20名程度の学生が、毎週1回町家に集まって市民の方々とも意見交換をしたり、街なかのイベントに参加したりしつつ、活動の方向性を模索してきました。この活動を町家プロジェクトと呼んでいます。この町家プロジェクトからいくつかの自主活動が生まれています。また、市民の方々からお声掛けいただく機会も増えてきました。今後とも町家プロジェクトに対して、市民の方々のご指導とご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。